

フィジカルAIの最前線：中国発スタートアップ「SynapX」の衝撃とポテンシャル

会社概要と急成長の軌跡

「物理AGI」の実現を目指す新興勢力
2026年1月に正式ローンチ。「持続的に自己進化する具身知能 (Embodied AI)」の生産力提供をミッションとする。

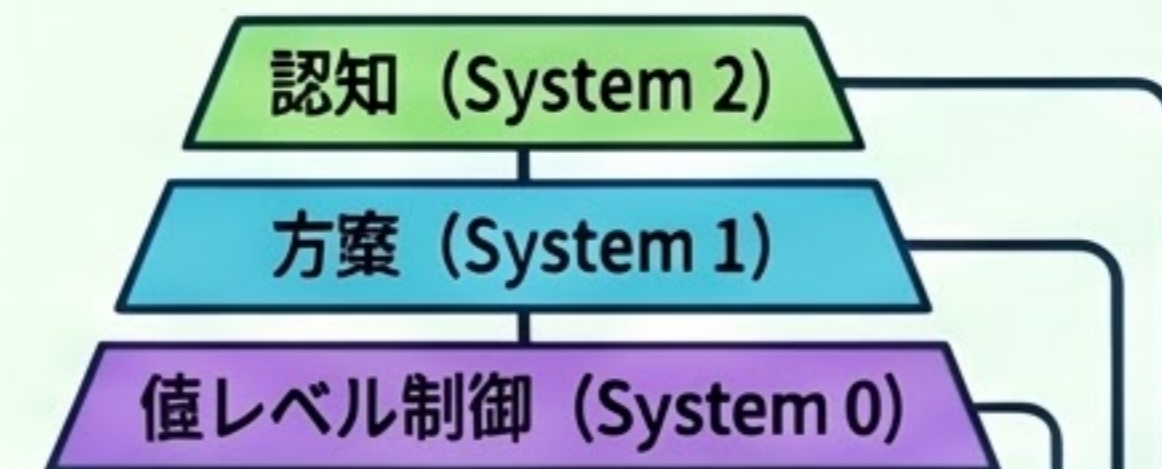


ハードよりも「脳とデータ」に特化: 自社製ロボットの量産販売よりも、ロボットOEMやSierに組み込まれる基盤モデルやデータ評価レイヤーでの勝利を目指す。

2026年4月 ICRA 2026公式大会にて中国1位・世界2位入賞

技術の核心：SYNTHアーキテクチャ

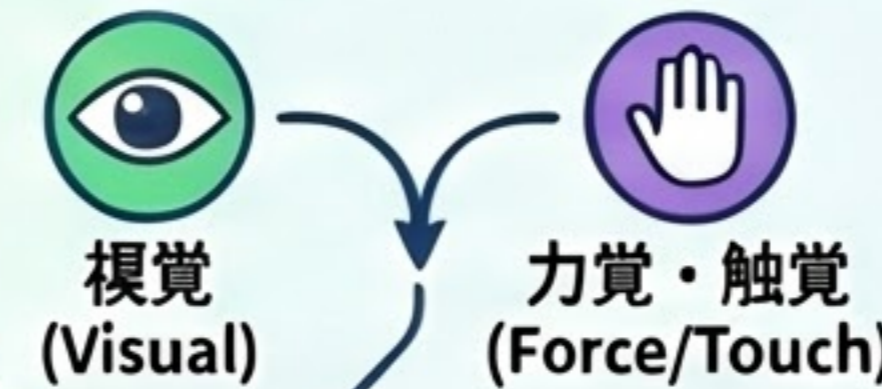
SYNAction (REMA)：階層型操作知能



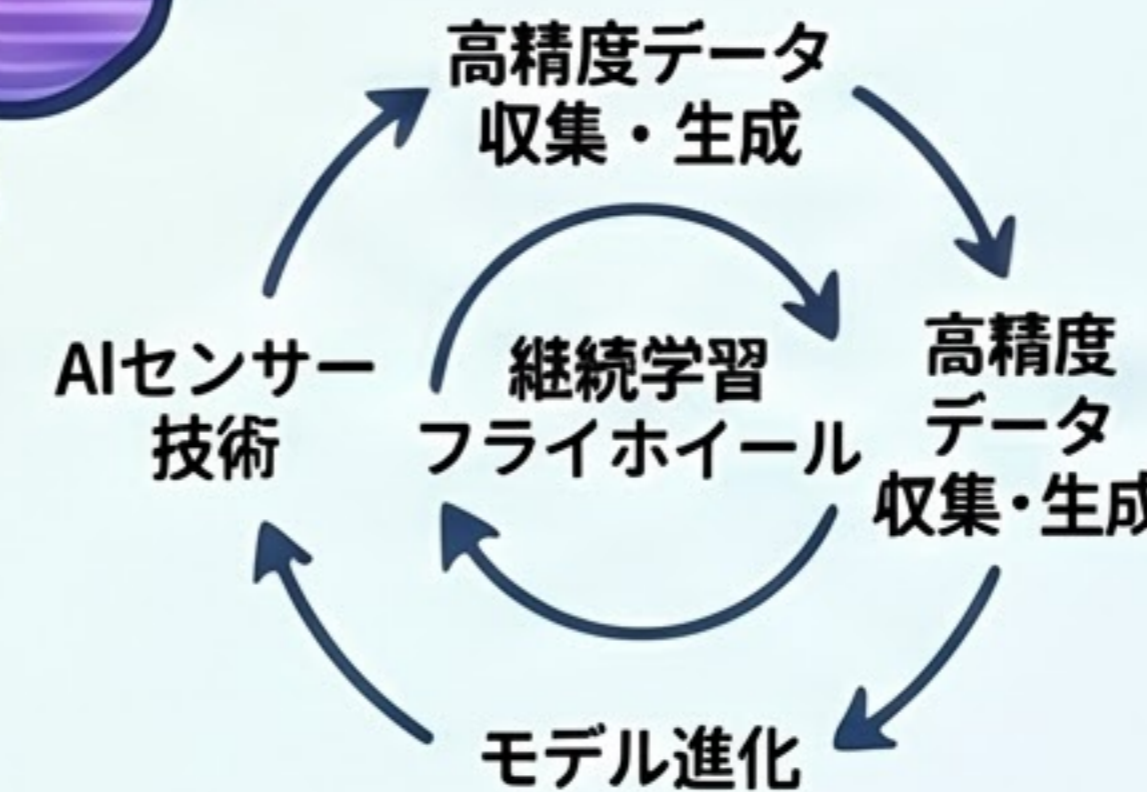
認知、方策、低レベル制御を周波数分離して統合し、言語モデルの思考とリアルタイム制御を両立させる。

SYNWorld (VFT-WFM)：マルチモーダル世界モデル

視覚だけでなく、物理的な「力」や「触覚」のダイナミクスを統合し、物理世界との相互作用を予測・理解する。



SYNData (OPDS)：物理データエコシステム
AIセンサー技術を用いて視覚・力覚・触覚データを高精度に収集・生成し、継続学習のフライホイールを回す。



市場の立ち位置と競合比較

「脳レイヤー」の競合
ハードウェアに依存しない汎用物理AIモデルを目指す点で共通。Google DeepMind等のモデル中心プレイヤーに近い。

Physical Intelligence



中国国内の最強ライバル: データセット、基盤モデル、ロボット本体まで揃えた垂直統合型であり、最も厳しい比較対象。

実運用志向企業との差: Boston Dynamicsのような実機信頼性や現場導入実績に比べると、SynapXはまだ商用化の初期段階。

未来への展望と直面するリスク

透明性と実証データの不足
2026年5月時点では査読論文や公開特許が乏しく、技術の再現性と信頼性の証明が次の大きな壁。

「自己進化」に伴う運用リスク
継続学習によるモデル更新には、データ汚染や安全性のドリフトといったMLOps/RobOps上の高度なガバナンスが求められる。

規制への適合とグローバル展開
中国のPIPLや欧州のAI Act、さらにISO安全規格 (ISO 10218) への適合が、産業現場や家庭への導入には不可欠。